

応募技術に関する資料作成要領

平成14年7月

国土交通省
大臣官房技術調査課

応募技術に関する資料作成要領

1. 公募対象技術

国土交通省の所掌する建設技術のうち、以下に示すテーマを対象とする。

(1) 建設廃棄物（木質系廃材）のリサイクル技術

本テーマは平成13年度「建設廃棄物のリサイクル技術」の1つとして公募を行ったものであるが、以下の背景から今年度再公募する。

なお、その他の昨年公募テーマについても、技術開発が引き続き進められるよう、次年度以降再公募する可能性がある。

平成12年度の建設副産物実態調査によれば、アスファルト・コンクリート塊及びコンクリート塊の再資源化率が目標値95%を超える一方で、木質系廃材のリサイクル率は約40%と進展しておらず、ほぼ横ばいと低迷している。本年5月に完全施行された建設リサイクル法の円滑な執行のためにも再利用率の向上は喫緊の課題である。昨年度の応募状況では、再資源化したチップを堆肥原料、マルチング材に利用するものが多く、ボード化する技術は少なかった。本年は利用用途・需要拡大を図るため、バージン材同等の板材、角材、型枠材等へのリサイクル技術が望まれる。

<公募にあたり満足すべき条件>

原料の廃材が、木質系廃材であること。

リサイクル品は従来品と同程度の品質、施工性を有する建設資材（板材、角材、型枠材）であること。

(2) 非破壊検査・センシング技術

人工海浜、道路の路面下、河川堤防、岸壁、護岸等、地中で局部的に発生する空洞による災害の防止、空洞箇所の予知・発見、人工海岸等の堤防背面状況の監視等に、非破壊で合理的かつ効率的な空洞調査・探査技術が求められている。社会資本ストックを長期間にわたって使用する観点から、社会資本の劣化の診断技術（非破壊検査技術）、構造物等の異常をセンサー等により感知する技術（センシング技術）も求められている。

<公募にあたり満足すべき条件>

次のいずれかに該当するものであること。

土・石構造物の調査項目は、地中に発生した空洞等の大きさ、深さを対象とするものであること。

コンクリート構造物の調査項目は、中性化、塩分含有量・浸透量、クラック等のコンクリートの変状、鉄筋の位置・腐食等の状況及び中詰や背後の空洞等を対象とするものであること。

鋼構造物の調査項目は、厚さ100mmまでの部材を使用したもので、溶接構造、ボルト又はリベットによる接合を対象とし、クラック、緩み、腐食等の変状等を対象とするものであること。

その他、社会資本の維持管理の合理化、効率化、確実性向上等に資する非破壊検査・センシング技術であること。

(3) GIS (地理情報システム) 活用技術

新たな事業による景観等への影響や効果の把握、合意形成の充実を図るためには三次元画像シミュレーション技術の活用が有効である。それらの基盤技術として、三次元地図の作成・更新を容易にする技術が求められている。

< 公募にあたり満足すべき条件 >

都市などの三次元地図情報の生成及び維持・更新に関わる技術で、次のいずれかに該当し、生成される三次元地図情報は、各種事業や施設の景観対策技術評価等の目的で行われる景観シミュレーション等の基礎情報として活用できるものであること。

地理情報標準に準拠する等、他システムとの連携が可能な、都市などの三次元地図情報を生成するものであること。

航空写真、衛星情報などのリモートセンシング技術を活用し、適時に適切な更新が行えるものであること。

(4) 建設現場における安全対策技術

建設労働災害は、全産業の労働災害の約4割を占めており、なお一層の対策の推進が望まれている。最近増加傾向にある、道路工事中における一般車両による「もらい事故」や建設機械による巻き込み事故等による作業員の災害を未然に防ぎ、作業区域内の安全確保を図るための技術が求められている。

< 公募にあたり満足すべき条件 >

工場の安全を向上する技術であって、次のいずれかに該当するものであること。

建設機械又は工事現場に設置することにより、安全を確保できるものであること。

工事従事者が着用することによって安全を確保できるものであること。

(5) 長期的テーマ

本テーマは、本年度より設定したものである。従来の技術基準で判断できないような提案でも、飛躍的な改善効果が期待できるものは「試みる価値がある」として採用することを基本としている。従来の技術基準、マニュアル類に代表される固定観念にとらわれない、画期的な技術の応募を期待し、以下の3テーマについて、今後5年間継続して公募を行う。

1) 公共事業のコスト縮減につながる新しい計画、設計から材料、施工法に至る各分野の技術
公共事業の現状コストを画期的に縮減可能(20%以上縮減)にする技術を対象とする。

2) 自然創出に関する画期的な技術

開発に伴って失われる自然生態系を保全・再生する技術として、豊かな自然環境の再生を行う画期的であり施工後に効果が計測可能な技術が求められている。(例えば、「現地における自然再生技術」、「自然再生計画の手法」等)

3) その他、建設技術分野における画期的な技術

2. 資料の内容

技術を応募する者は、以下に定める資料を添えて応募するものとする。応募技術概要書の記載内容は、後添「応募技術概要書（記入要領）」によること。

- ・表紙（様式 - 1）
- ・応募技術概要書（様式 - 2） 注：応募するテーマ名の概要書のみ提出する。
- ・その他添付資料
 - ・テーマ（1）～（4）：パンフレット、特許等の公開・公告された書類の写し
 - ・テーマ（5）：パンフレット、特許等の公開・公告された書類の写し
確認試験報告書等の研究成果、設計法に関する技術資料等
- ・様式 - 1 及び様式 - 2 の電子ファイルを収めた3.5インチフロッピーディスク
- ・資料受領通知はがき（別記 - 1）

資料の表紙（様式 - 1）及び応募技術概要書（様式 - 2）については、国土交通省のホームページ（http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/13130722_.html）よりダウンロードできる。

3. 資料の提出

（1）資料は、次の受付期間及び郵送先に郵送（書留郵便に限る。）するものとし、持参又は電送によるものは受け付けない。

- ・受付期間：平成14年7月22日(月)から平成14年8月30日(金)まで（必着）。
注：長期テーマについては、今後5年間継続して、毎年、公募する。

- ・郵送先：国土交通省大臣官房技術調査課内
公共工事技術活用評価委員会事務局（宮石、吉田）
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2 - 1 - 3
TEL 03 - 5253 - 8111（内線22345、22384）

（2）提出資料は、表紙を1頁とした通し番号を付するとともに全頁数を表示し、「袋とじ」で提出すること（頁の例：1 / ～ / ）。また、提出部数は次のとおりとする。この際、両面コピーでの提出は認めない。

- ・提出部数：2部（正1部、副1部）、3.5インチフロッピーディスク1枚、はがき1通

4. 技術の選定に関する事項

（1）技術の選定の視点

選定は、以下の視点をもとに総合的に行う。

- 1) 応募書類及び記入方法に不備がないこと。
- 2) 公募テーマ及び公募条件に適合していること。
- 3) 特許技術であるなど、技術に創意性があること。
- 4) 地方整備局で発注される工事において活用が見込めること。
- 5) 活用の効果が定量的に把握できていること。

6) コストが低廉で、保守、運用等に高度な技術を要しないものであること。

なお、当該技術は、以下の要件を満たしている必要がある。

技術の内容に係る全てを提示できること。

関係法令に適合していること。

(2) 結果の通知

応募した者に対して、3月上旬までに結果を文書で通知する予定である。

(3) 通知の取り消し

通知を受けた者が次のいずれかに該当することが判明した場合は、通知の全部又は一部を取り消すことがある。

1) 通知を受けた者が、偽りその他不正の手段により選定を受けたことが判明したとき。

2) 通知を受けた者から取り消しの申請があったとき。

3) その他必要と認められたとき。

5. 技術を応募できる者

技術を応募できる者は、当該技術を主体的に開発し、なおかつ、実施する上で必要な能力を有する個人及び法人とする。

6. 実施上の留意事項

(1) 現場での活用が適当であると判断された技術の開発者は、工事設計等への支援をしていた
場合がある。

(2) 資料の作成及び提出に要する費用は、応募者の負担とする。

(3) 応募された資料は、技術の選定以外に無断で使用することはない。

(4) 応募された資料は、返却しない。

(5) 問い合わせ先等は以下のとおりとする。

・問い合わせ先：国土交通省大臣官房技術調査課内

公共工事技術活用評価委員会事務局（宮石、吉田）

〒1008918 東京都千代田区霞が関2 - 1 - 3

TEL 03 - 5253 - 8111（内線22345、22384）

・問い合わせ先（港湾関係）：国土交通省港湾局環境・技術課

担当者（高橋、安達）

〒1008918 東京都千代田区霞が関2 - 1 - 3

TEL 03 - 5253 - 8111（内線46632、46635）

・期 間：平成14年7月22日（月）から平成14年8月30（金）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、10時00分から17時00分まで（12時00分から13時00分は除く）。

(様式 - 1)

平成 年 月 日

国土交通省大臣官房

技術総括審議官

川島 毅 殿

住所 〒 -
県 市 番
代表者 建設株式会社
代表取締役社長

印

の 技術に関する資料を提出します。
なお、問い合わせ先は下記のとおりです。

記

1. 問い合わせ先

担当者 :
部 所 : 本店 部 課
電話番号 : (代) - - [(内)]

7. 公募条件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>: 原料の廃材が、木質系廃材であること。</p> <p>: リサイクル品は従来品と同程度の品質、施工性を有する建設資材（板材、角材、型枠材）であること。</p>																																																																																
8. 要件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>: 技術の内容に係る全てを提示できるものであること。</p> <p>: 関係法令に適合していること。</p>																																																																																
<p>9. 技術の性能等</p> <p>(目的物の形状・物性)</p>	<table border="1" data-bbox="518 645 1437 972"> <tr> <th>製品形状</th> <th>板材</th> <th>角材</th> <th>型枠直接成型</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">板 材</td> <td>厚 さ</td> <td>mm</td> <td>mm、 mm、 mm、 mm</td> </tr> <tr> <td>大 き さ</td> <td>mm</td> <td>縦 m × 横 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">角 材</td> <td>断面寸法</td> <td>mm</td> <td>mm × mm、 mm × mm</td> </tr> <tr> <td>長 さ</td> <td>m</td> <td>m、 m、 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">型枠直接成型</td> <td>形 状</td> <td>-</td> <td>平面 コーナー その他</td> </tr> <tr> <td>寸 法</td> <td>mm</td> <td>m × m、 m × m</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="518 1016 1437 1576"> <tr> <td rowspan="2">曲げ強度</td> <td>縦</td> <td>N/mm²</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>N/mm²</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">曲げ ヤング率</td> <td>縦</td> <td>N/mm²</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>N/mm²</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td>剪断強度</td> <td></td> <td>N/mm²</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td>木ネジ保持力</td> <td></td> <td>N</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td></td> <td>g/cm³</td> <td>g/cm³</td> </tr> <tr> <td>含水率</td> <td></td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>吸水率</td> <td></td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>吸水厚さ膨張率</td> <td></td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">耐久性</td> <td>形状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>物性</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>当該製品の形状・物性に対する精度を上表の該当する箇所に併記する。</p> <table border="1" data-bbox="518 1621 1437 1715"> <tr> <td>ホルムアルデヒドの放出量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リサイクルに必要なエネルギー -</td> <td>原料 t 製品 t (灯油換算 L)</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="518 1760 1437 1899"> <tr> <td>原料となる木質系廃材の種類</td> <td>建築解体材 間伐材 草 その他 ()</td> </tr> <tr> <td>材料費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理費</td> <td></td> </tr> </table> <p>・リサイクル材を再リサイクルできる工夫について記す。</p>	製品形状	板材	角材	型枠直接成型	板 材	厚 さ	mm	mm、 mm、 mm、 mm	大 き さ	mm	縦 m × 横 m	角 材	断面寸法	mm	mm × mm、 mm × mm	長 さ	m	m、 m、 m	型枠直接成型	形 状	-	平面 コーナー その他	寸 法	mm	m × m、 m × m	曲げ強度	縦	N/mm ²	N/mm ²	横	N/mm ²	N/mm ²	曲げ ヤング率	縦	N/mm ²	N/mm ²	横	N/mm ²	N/mm ²	剪断強度		N/mm ²	N/mm ²	木ネジ保持力		N	N	密度		g/cm ³	g/cm ³	含水率		%	%	吸水率		%	%	吸水厚さ膨張率		%	%	耐久性	形状			物性			ホルムアルデヒドの放出量		リサイクルに必要なエネルギー -	原料 t 製品 t (灯油換算 L)	原料となる木質系廃材の種類	建築解体材 間伐材 草 その他 ()	材料費		処理費	
製品形状	板材	角材	型枠直接成型																																																																														
板 材	厚 さ	mm	mm、 mm、 mm、 mm																																																																														
	大 き さ	mm	縦 m × 横 m																																																																														
角 材	断面寸法	mm	mm × mm、 mm × mm																																																																														
	長 さ	m	m、 m、 m																																																																														
型枠直接成型	形 状	-	平面 コーナー その他																																																																														
	寸 法	mm	m × m、 m × m																																																																														
曲げ強度	縦	N/mm ²	N/mm ²																																																																														
	横	N/mm ²	N/mm ²																																																																														
曲げ ヤング率	縦	N/mm ²	N/mm ²																																																																														
	横	N/mm ²	N/mm ²																																																																														
剪断強度		N/mm ²	N/mm ²																																																																														
木ネジ保持力		N	N																																																																														
密度		g/cm ³	g/cm ³																																																																														
含水率		%	%																																																																														
吸水率		%	%																																																																														
吸水厚さ膨張率		%	%																																																																														
耐久性	形状																																																																																
	物性																																																																																
ホルムアルデヒドの放出量																																																																																	
リサイクルに必要なエネルギー -	原料 t 製品 t (灯油換算 L)																																																																																
原料となる木質系廃材の種類	建築解体材 間伐材 草 その他 ()																																																																																
材料費																																																																																	
処理費																																																																																	
(地球環境への影響)																																																																																	
<p>(当該技術が期待される成果を達成するための自然条件、現場条件等)</p> <p>(リサイクル材を再リサイクルできる工夫)</p>																																																																																	

<p>10. その他の確認事項</p>	<p>1) 施工実績の有無 (有り 無し)</p> <p>2) 当該技術の保有者が施工しうる地域の範囲</p> <p>3) NETISへの登録 (有り - 登録番号 _____ 無し)</p> <p>4) 具体的な特許取得内容について 国内特許 (有り 無し)、外国特許 (有り 無し) 特許出願中 (有り 無し) 特許取得部分 (全部 一部) : 他社に許諾しない : 有償許諾 : 無償許諾 特許使用料 (円)</p>
<p>11. 添付資料</p>	<p>: 応募技術のパンフレット : 特許等の手続きの写し</p>

7. 公募条件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>：土・石構造物の調査項目は、地中に発生した空洞等の大きさ、深さを対象とするものであること。</p> <p>：コンクリート構造物の調査項目は、中性化、塩分含有量・浸透量、クラック等のコンクリートの変状、鉄筋の位置・腐食等の状況及び中詰や背後の空洞等を対象とするものであること。</p> <p>：鋼構造物の調査項目は、厚さ100mmまでの部材を使用したもので、溶接構造、ボルト又はリベットによる接合を対象とし、クラック、緩み、腐食等の変状等を対象とするものであること。</p> <p>：その他、社会資本の維持管理の合理化、効率化、確実性向上等に資する非破壊・センシング技術であること。</p>																																																																																							
8. 要件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>：技術の内容に係る全てを提示できるものであること。</p> <p>：関係法令に適合していること。</p>																																																																																							
9. 技術の性能等 (目的物の形状・物性)	<table border="1" data-bbox="518 920 1434 2009"> <thead> <tr> <th colspan="2">調査対象構造物</th> <th>コンクリート</th> <th>鋼</th> <th>土・石</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">原理及び試験装置</td> <td colspan="3">例：電磁波法（レーダー法）</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">コン ク リ ・ ト</td> <td rowspan="2">ひび割れ</td> <td>ひび割れ幅</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ひび割れ深さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>はく離</td> <td>はく離・はく落</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">塩分</td> <td>塩分含有量</td> <td>kg/m3</td> <td>kg/m3</td> </tr> <tr> <td>塩分浸透量</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>中性化</td> <td>中性化深さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配筋状態</td> <td>鉄筋位置</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>鉄筋径</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>鉄筋腐食</td> <td>mg/cm2</td> <td>mg/cm2</td> </tr> <tr> <td>圧縮強度</td> <td>圧縮強度</td> <td>N/mm2</td> <td>N/mm2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">内部の 不良範囲</td> <td>位置</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>寸法</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">背面状況</td> <td>空洞抽出範囲</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>コンクリート厚</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">鋼</td> <td rowspan="3">表面欠陥</td> <td>母材</td> <td>腐食</td> <td>範囲、厚さ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>線状欠陥</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>円状欠陥</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">溶接部</td> <td>腐食</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>線状欠陥</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>円状欠陥</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">（次ページに続く）</td> </tr> </tbody> </table>	調査対象構造物		コンクリート	鋼	土・石	原理及び試験装置		例：電磁波法（レーダー法）			コン ク リ ・ ト	ひび割れ	ひび割れ幅	mm	mm	ひび割れ深さ	mm	mm	はく離	はく離・はく落			塩分	塩分含有量	kg/m3	kg/m3	塩分浸透量	mm	mm	中性化	中性化深さ	mm	mm	配筋状態	鉄筋位置	mm	mm	鉄筋径	mm	mm	鉄筋腐食	mg/cm2	mg/cm2	圧縮強度	圧縮強度	N/mm2	N/mm2	内部の 不良範囲	位置	mm	mm	寸法	mm	mm	背面状況	空洞抽出範囲	mm	mm	コンクリート厚	mm	mm	鋼	表面欠陥	母材	腐食	範囲、厚さ		線状欠陥	mm		円状欠陥	mm	溶接部	腐食			線状欠陥	mm	mm	円状欠陥	mm	mm	（次ページに続く）				
調査対象構造物		コンクリート	鋼	土・石																																																																																				
原理及び試験装置		例：電磁波法（レーダー法）																																																																																						
コン ク リ ・ ト	ひび割れ	ひび割れ幅	mm	mm																																																																																				
		ひび割れ深さ	mm	mm																																																																																				
	はく離	はく離・はく落																																																																																						
	塩分	塩分含有量	kg/m3	kg/m3																																																																																				
		塩分浸透量	mm	mm																																																																																				
	中性化	中性化深さ	mm	mm																																																																																				
	配筋状態	鉄筋位置	mm	mm																																																																																				
		鉄筋径	mm	mm																																																																																				
		鉄筋腐食	mg/cm2	mg/cm2																																																																																				
	圧縮強度	圧縮強度	N/mm2	N/mm2																																																																																				
	内部の 不良範囲	位置	mm	mm																																																																																				
		寸法	mm	mm																																																																																				
	背面状況	空洞抽出範囲	mm	mm																																																																																				
		コンクリート厚	mm	mm																																																																																				
鋼	表面欠陥	母材	腐食	範囲、厚さ																																																																																				
			線状欠陥	mm																																																																																				
			円状欠陥	mm																																																																																				
	溶接部	腐食																																																																																						
		線状欠陥	mm	mm																																																																																				
		円状欠陥	mm	mm																																																																																				
（次ページに続く）																																																																																								

	鋼	内部欠陥	母材	線状欠陥	mm	mm
			材	円状欠陥	mm	mm
			溶接部	線状欠陥	mm	mm
				円状欠陥	mm	mm
		裏面欠陥	母材	腐食		
				線状欠陥	mm	mm
				円状欠陥	mm	mm
			溶接部	腐食		
				線状欠陥	mm	mm
				円状欠陥	mm	mm
		ボルト	緩み			
			腐食			
	リベット	緩み				
		腐食				
	土・石	空洞	抽出範囲	m	m	
			土被り	m	m	
		不健全な範囲	抽出範囲	m	m	
			土被り	m	m	
	(現場及びその周辺への影響)	電磁波・放射線等の影響				
		その他の影響				
(当該技術が期待される成果を達成するための自然条件、現場条件等)	検査を行うに当たっての自然条件					
	精度に及ぼす現場条件					
	対象構造物の規模					
	特殊技師への依存度					
	1日当たり調査費用					
	1日当たり調査範囲					
	調査精度(結果と実際値の誤差)を上表の該当する個所に併記する。					

<p>10. その他の確認事項</p>	<p>1) 施工実績の有無 (有り 無し)</p> <p>2) 当該技術の保有者が施工しうる地域の範囲</p> <p>3) NETISへの登録 (有り - 登録番号_____ 無し)</p> <p>4) 具体的な特許取得内容について 国内特許 (有り 無し)、外国特許 (有り 無し) 特許出願中 (有り 無し) 特許取得部分 (全部 一部) : 他社に許諾しない : 有償許諾 : 無償許諾 特許使用料 (円)</p>
<p>11. 添付資料</p>	<p>: 応募技術のパンフレット : 特許等の手続きの写し</p>

7. 公募条件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>：地理情報標準に準拠する等、他システムとの連携が可能な、都市などの三次元地図情報を生成するものであること。</p> <p>：航空写真、衛星情報などのリモートセンシング技術を活用し、適時に適切な更新が行えるものであること。</p>
--------------	---

8. 要件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>：技術の内容に係る全てを提示できるものであること。</p> <p>：関係法令に適合していること。</p>
------------	---

9. 技術の性能等	(三次元地図データの評価項目)		
	データ項目	評価項目	内 容
	地形	データモデル	グリッド TIN ブレイクラインを使ったTIN
		標高内挿の方法	メトリック ノンメトリック
		データ取得法	レーザプロファイラ 空中写真計測 その他
		データ密度	1 ha当たりの平均点数： 点/ha
		地下の表現	マルチサーフェス 多面体モデル
		符号化法	DXF XML VRM CSV DM フォーマット その他()
		被覆	データの種類の種類 デジタルオルソ 衛星画像() 高解像度衛星画像() その他()
		符号化法	GeoTIFF TIFF JPEG BMP その他()
	ベクタ地物	主たる地物種類 () () () () () () () ()	
	空間属性	点 線 面 立体 位相関係	
	時間属性	瞬間 期間	
	主題属性	文字列 静止画 動面 URL その他	
	符号化法	DXF XML VRM CSV DM フォーマット その他()	
(三次元地図データの活用範囲)			
活用の種類	概要説明		
(例) 地形解析	斜面方向分類、傾斜度分類		
(次ページに続く)			

	<p>(地理情報標準準拠のレベル)</p> <table border="1" data-bbox="518 271 1434 504"> <tr> <td>「メタデータ」に準拠するコアメタデータの記述が可能</td> </tr> <tr> <td>「空間スキーマ」に準拠する空間属性をもつ地物データ作成が可能</td> </tr> <tr> <td>「応用スキーマのための規則」に準拠する応用スキーマ作成が可能</td> </tr> <tr> <td>「符号化法」に準拠するXMLによる符号化が可能</td> </tr> <tr> <td>「座標による空間参照」に準拠する座標参照系による座標データ作成が可能</td> </tr> </table>	「メタデータ」に準拠するコアメタデータの記述が可能	「空間スキーマ」に準拠する空間属性をもつ地物データ作成が可能	「応用スキーマのための規則」に準拠する応用スキーマ作成が可能	「符号化法」に準拠するXMLによる符号化が可能	「座標による空間参照」に準拠する座標参照系による座標データ作成が可能
「メタデータ」に準拠するコアメタデータの記述が可能						
「空間スキーマ」に準拠する空間属性をもつ地物データ作成が可能						
「応用スキーマのための規則」に準拠する応用スキーマ作成が可能						
「符号化法」に準拠するXMLによる符号化が可能						
「座標による空間参照」に準拠する座標参照系による座標データ作成が可能						
<p>10. その他の確認事項</p>	<p>1) 施工実績の有無 (有り 無し)</p> <p>2) 当該技術の保有者が施工しうる地域の範囲</p> <p>3) NETISへの登録 (有り - 登録番号_____ 無し)</p> <p>4) 具体的な特許取得内容について 国内特許 (有り 無し)、外国特許 (有り 無し) 特許出願中 (有り 無し) 特許取得部分 (全部 一部) : 他社に許諾しない : 有償許諾 : 無償許諾 特許使用料 (_____ 円)</p>					
<p>11. 添付資料</p>	<p>: 応募技術のパンフレット : 特許等の手続きの写し</p>					

7. 公募条件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> : 公共事業の現状コストを画期的に縮減可能(20%以上縮減)な技術であること。 : 開発に伴って失われる自然生態系を保全・再生する画期的であり施工後に効果が計測可能な技術であること。 : その他、建設技術分野における画期的な技術であること。
8. 要件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> : 技術の内容に係る全てを提示できるものであること。 : 関係法令に適合していること。
9. その他の確認事項	<p>1) 施工実績の有無 (有り 無し)</p> <p>2) 当該技術の保有者が施工しうる地域の範囲</p> <p>3) 具体的な特許取得内容について 国内特許(有り 無し)、外国特許(有り 無し) 特許出願中(有り 無し) 特許取得部分(全部 一部) : 他社に許諾しない : 有償許諾 : 無償許諾 特許使用料(円)</p> <p>4) テーマ名1)の場合は、20%以上のコスト縮減内容を記す。</p> <p>5) テーマ名2)の場合は、施工後の効果計測方法を記す。</p>
10. 添付資料	<ul style="list-style-type: none"> : 応募技術のパンフレット : 特許等の手続きの写し : 上記に関する補足資料(確認試験報告書等の研究成果等) : その他

(様式 - 2)

応募技術概要書 (記入要領)

テーマ名 項目	応募する技術テーマの応募技術概要書を使用する。 技術
1. 技 術 名 称	応募技術の愛称名もしくは商標等を記入する。
2. 副 題	応募技術の用途を明確にした一般的な名称を記入する。
3. 応 募 者 名	法人名のみ記入する。 なお、応募者が複数の場合は、列挙する。
4. 開 発 体 制	国産開発技術か外国技術導入のうち1つチェックする。また、外国技術導入の場合は全部か一部かのいずれかをチェックする。 全て国産開発技術 外国技術導入 (全部 一部) 単独か共同研究のうち1つチェックする。 共同研究の場合は、民・民共同 (民間同士の共同開発)、民・官共同 (民間と官の共同開発)、民・学共同 (民間と学術機関の共同開発)、民・官・学共同 (民間と官と学術機関の共同研究) のいずれかを1つチェックする。 単独 共同研究 (民・民、 民・官、 民・学、 民・官・学)
5. 技 術 の 概 要	(技術の概要) 応募技術の概要について簡潔に記入する。 (当該技術の開発時期) (図表等) 応募技術の概要に係る図表等をまとめて示す。

7．公募条件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>技術の要件に対し、問題がないことを以下にチェックで示す。</p> <p>： が、 であること。</p> <p>： x x x xは、 であること。</p>
8．要件との適合性	<p>該当箇所をチェックする。</p> <p>技術の要件に対し、問題がないことを以下にチェックで示す。なお、関係法令に特許法を含む。</p> <p>：技術の内容に係る全てを提示できるものであること。</p> <p>：関係法令に適合していること。</p>
9．技術の性能等	<p>各公募テーマ毎に技術特性の確認を目的とした、性能等を記入する表を設けてある。</p> <p>該当箇所に記入する。</p>

<p>10. その他の確認事項</p>	<p>1) 施工実績の有無 (有り 無し) <i>施工実績の有無をチェックで示す。施工実績がある場合は、最新のものより10件までを記入する。10件を超える場合は、その他 件と最後に記す。施工実績については、工事件名、施工期間、発注者名の順に記す。</i></p> <p>2) 当該技術の保有者が施工しうる地域の範囲 <i>例えば、日本全国、東北地区、九州地区等。</i></p> <p>3) NETISへの登録 (有り - 登録番号_____ 無し) <i>NETISへの登録の有無を上をチェックで示す。登録している場合は、登録番号を記す。</i></p> <p>4) 具体的な特許取得内容について 国内特許 (有り 無し)、外国特許 (有り 無し) 特許出願中 (有り 無し) 特許取得部分 (全部 一部) 他社に許諾しない 有償許諾 無償許諾 特許使用料 (_____ 円) <i>特許の取得状況を上をチェックで示す。</i></p>
<p>11. 添付資料</p>	<p><i>技術応募時に添付される資料の一覧をチェックする。(長期的テーマを除き、本年度は以下の2点とする。)</i></p> <p>: 応募技術のパンフレット : 特許等の手続きの写し</p>

(別記 - 1)

資料受領通知はがき

資料受領の通知を代表者あて通知しますので下記に示した内容のはがきを1枚同封してください(記入は手書き(楷書)でもかまいません。)

郵便番号も忘れずに記入してください。

<p data-bbox="209 763 352 902">切手貼附 のこと</p> <table border="1" data-bbox="434 759 735 860"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p data-bbox="564 936 600 1339">代 表 者 の 住 所 及 氏 名</p>									<p data-bbox="935 981 1278 1059">裏面には何も記入しないで ください。</p>

(表面)

(裏面)